

令和8年度 組織目標

様式1

部局名	所属名	職・氏名	項目	目標	CO2 ネットゼ ロ	業務見 直し
農政水産部	-	部長 土井 典 次長 梶 一哉	農畜水産業を支えるひとづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業人材の確保に向けた、農業大学校と農業高校との連携強化 <u>農業専門教育のあり方の取りまとめ</u></li> <li>・農業・農山村を支える多様な人材の確保に向けた、企業と地域農業の円滑な連携の支援 <u>企業等からの相談に対応する一次相談窓口の設置</u></li> <li>・農村集落の維持・活性化による中山間地域の振興 <u>集落間連携や多様な主体との協働活動により集落機能の維持・活性化を図った集落数(累計):75集落 (R7:67集落)</u></li> <li>・生産性の向上を実現する農地の大区画化等の農地整備の推進 <u>農地整備に新規着手する集落数(累計):192集落(R7:180集落)</u></li> </ul>		
農政水産部	-	部長 土井 典 次長 梶 一哉	力強い農業の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規生産者の掘り起こしによる、きらみずきの作付拡大 <u>きらみずき作付計画面積 R8:約280ha → R9:360ha</u> <u>うち、オーガニック栽培 R8:約 35ha → R9: 45ha</u></li> <li>・園芸の億円産地づくりに向けた、関係機関との連携によるロードマップ作成の推進 <u>億円産地へのロードマップ等が整備された産地数:6産地</u></li> <li>・「将来にわたり“選ばれる近江牛”」であり続けるため、産官学での食味向上など、牛よし、人よし、社会よしの“三方よし”の近江牛生産の推進 <u>牛枝肉中のオレイン酸含有率測定頭数:2,900頭</u></li> </ul>		

令和8年度 組織目標

様式1

部局名	所属名	職・氏名	項目	目標	CO2 ネットゼ ロ	業務見 直し
農政水産部	-	部長 土井 典 次長 梶 一哉	県産農畜水産物の消費拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界農業遺産「琵琶湖システム」のPRや体感機会の創出等により、県産農畜水産物の消費を拡大  <u>琵琶湖システムInstagramをフォローする人数:8,000人以上</u>  <u>びわ湖魚グルメに取り組む店舗の数:65店舗以上</u>  <u>つなぐプロジェクトのイベントに参加する人数:300人以上</u></li> <li>・滋賀食材の更なる消費拡大に向けた、事業者や生産者等の協働・連携を活性化による「おいしが うれしが」キャンペーンの取組強化  <u>協働・連携して滋賀食材を活用する新たな取組数:5企画</u></li> <li>・湖魚食文化に「親しんで」「支えて」「守る」サイクルの実現に向けた、県内の大学・企業での湖魚の食堂利用と連動したCSR活動の促進  <u>湖魚の食堂利用と連動した地域貢献活動に取り組む大学・企業:10校・社</u></li> </ul>		
農政水産部	-	部長 土井 典 次長 梶 一哉	気候変動に適応した農業・水産業の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米の新たな高温耐性品種(滋賀82号、滋賀酒85号)の作付け拡大  <u>滋賀82号作付計画面積 R8:約10ha → R9:780ha</u>  <u>滋賀酒85号作付計画面積 R8:約10ha → R9: 30ha</u></li> <li>・環境こだわり農業推進基本計画の改定  <u>①水田地力の向上等の技術体系の再構築、②オーガニック農業等の拡大、③ブランド力強化に向けた新たな推進方策の提示</u></li> <li>・アユ産卵用人工河川に係る仔魚が生残しやすい条件(水温、餌環境)を踏まえた運用等によるアユ資源の確保  <u>需要が高まる12月の鮎苗注文量に対する供給率:100%</u></li> </ul>	●	

令和8年度 組織目標

様式1

部局名	所属名	職・氏名	項目	目標	CO2 ネットゼ ロ	業務見 直し
農政水産部	農政課	課長 寺田 由美子	世界農業遺産「琵琶湖システム」の魅力発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界農業遺産「琵琶湖システム」の更なる認知度向上や理解促進に向け、DC等のイベントやSNSを活用したPR、体感機会の創出等の魅力発信に取り組む。</li> <li><u>琵琶湖システムInstagramをフォローする人数:8,000人以上</u></li> <li><u>びわ湖魚グルメに取り組む店舗の数:65店舗以上</u></li> <li><u>つなぐプロジェクトのイベントに参加する人数:300人以上</u></li> </ul>		
農政水産部	農政課	課長 寺田 由美子	CO2ネットゼロ実現に向けた気候変動への適応	<ul style="list-style-type: none"> <li>農政水産部におけるCO2ネットゼロをさらに推進するため、農林水産業気候変動対策実行計画を改訂するとともに滋賀県庁耕・畜・エビオマスプロジェクトに取り組む。</li> <li>【農林水産業気候変動対策実行計画】 <ul style="list-style-type: none"> <li><u>気候変動への適応を推進する計画の改訂</u></li> </ul> </li> <li>【滋賀県庁耕・畜・エビオマスプロジェクト】 <ul style="list-style-type: none"> <li><u>バイオ液肥の活用に関する先進地調査:2か所以上</u></li> <li><u>バイオ液肥を活用した栽培実証への技術支援:3品目以上</u></li> <li><u>エネルギー作物活用の実装化を加速させる取組</u> <ul style="list-style-type: none"> <li><u>ペレット加工:試作品の作成</u></li> <li><u>施設暖房への利用:1品目以上</u></li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	●	
農政水産部	農政課	課長 寺田 由美子	大型モニターの活用による課内協議のペーパーレス化	<ul style="list-style-type: none"> <li>課内協議は原則、大型モニターを用いて行い、資料のペーパーレス化および協議の効率化を図る。</li> </ul>		●

令和8年度 組織目標

様式1

部局名	所属名	職・氏名	項目	目標	CO2 ネットゼ ロ	業務見 直し
農政水産部	みらいの農業振興課	技監(課長) 森野 真	日本有数の米どころとしてのさらなる躍進(西日本一へ)	<p>・きらみずきの作付拡大 生産者が300人以下に留まっており、新規生産者の掘り起こしが必要。既取組者からの情報発信(魅力、消費者の声、品質、収量性、栽培技術)や新たな販路開拓等により新規生産者の掘り起こしを進め、作付を拡大。 <u>作付計画面積 R8:約280ha → R9:360ha</u> <u>うち、オーガニック栽培 R8:約 35ha → R9: 45ha</u></p> <p>・滋賀82号の作付拡大 各地域の現地ほ場における安定栽培の実証や種子の確保、関係団体と連携した乾燥調製施設単位での品種転換スケジュールを検討しつつ作付を拡大。 <u>作付計画面積 R8:約10ha → R9:780ha</u></p> <p>・滋賀酒85号の作付拡大 現地ほ場における安定栽培の実証に加え、生産から醸造にいたる関係部局・団体と連携し、滋賀酒85号を使用した酒新銘柄のデビューを進め、消費・作付を拡大。 <u>作付計画面積 R8:約10ha → R9:30ha</u></p> <p>・麦大豆の産地力強化(R9制度見直し対応含む) 令和9年度からの水田政策の見直しを踏まえ、関係機関・団体と連携し産地力強化に向けたビジョンを作成【適地適作、適期作業、基本技術、需要に応じた生産】。 <u>新たな水田収益力強化ビジョン等の作成</u></p>		

令和8年度 組織目標

様式1

部局名	所属名	職・氏名	項目	目標	CO2 ネットゼ ロ	業務見 直し
農政水産部	みらいの農業振興課 (食のブランド推進室)	技監(室長) 森 真里	滋賀県産農畜水産物の消費拡大とブランド力の強化(園芸生産の拡大を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・億円産地づくりに向けた地域別の推進品目の具体化 関係機関と連携し、今後の億円産地への発展に向けたロードマップの作成を推進する。 <u>億円産地へのロードマップ等が整備された産地数:6産地</u></li> <li>・みおしずくの市場出荷型産地の強化 補助事業や実証は、研修会などを通じて、市場出荷を経営の柱とする生産者の育成、コールドチェーンの整備、需要期出荷量の増加等を図り、産地としての届ける力を強化する。また、県内外でのPR等を実施し、ブランド力の向上を図る。 <u>市場出荷向け栽培面積 R7:2.0ha → R8:2.2ha</u></li> <li>・「おいしが うれしが」キャンペーンのテコ入れ 事業者や生産者等の協働・連携を活性化し、「おいしが うれしが」キャンペーンの取組の強化することで、滋賀食材の更なる消費拡大へつなげる。 <u>協働・連携して滋賀食材を利活用する新たな取組数:5企画</u></li> <li>・学校給食を通じた地産地消の推進 学校給食に地場産農産物を安定して届ける地域内流通の仕組みをつくり、地産地消を推進し、地域の活性化につなげる。 <u>学校給食における地場産利用を拡大する取組のモデル数:2</u></li> </ul>		

令和8年度 組織目標

様式I

部局名	所属名	職・氏名	項目	目標	CO2 ネットゼ ロ	業務見 直し
農政水産部	みらいの農業振興課 (みどりの食料戦略室)	技監(室長) 森野 真	水田地力の低下、気候変動も踏まえた環境こだわり農業の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境こだわり農業推進基本計画を令和8年度に改定し、①水田地力の向上等の技術体系の再構築、②オーガニック農業等の拡大、③ブランド力強化に向けた新たな推進方策を示す。</li> </ul>	●	
農政水産部	みらいの農業振興課 (地域農業戦略室)	室長 今井 清之	みらいの本県農業の担い手の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>持続可能な地域農業の実現に向けた支援 持続可能な地域農業の実現に向けて、集落を越えた担い手間の連携や集落営農組織の継続に向けた取組を支援する。 <u>R8:5市町</u></li> <li>地域農業と企業等の連携支援 農業・農山村を支える多様な人材の確保に向け、企業等からの一次相談窓口の設置により、企業と地域農業の円滑な連携を図る。 <u>企業等からの相談に対応する一次相談窓口の設置</u></li> <li>農業大学校と農業高校との連携の強化 農業人材の確保に向けた、農業大学校と農業高校の連携のあり方の取りまとめを行う。 <u>農業人材確保に向けた農業専門教育のあり方の取りまとめ</u></li> <li>女性農業者の経営参画の推進 女性農業者が経営に積極的に参加できるよう、講座や研修会の開催などにより、女性の認定農業者等の増加を図る。 <u>女性の認定農業者等の数 R7:70人→R8:76人</u></li> </ul>		
農政水産部	みらいの農業振興課	技監(課長) 森野 真	長年続く業務の評価および今後の方向性の整理	<ul style="list-style-type: none"> <li>10年以上続く取組(団体、協議会等を含む)について、歴史的評価、現取組の評価を行った上で、今後の中長期的な方向性を整理する。</li> </ul>		●

令和8年度 組織目標

様式1

部局名	所属名	職・氏名	項目	目標	CO2 ネットゼ ロ	業務見 直し
農政水産部	—	理事 磯谷 充晃	滋賀食肉センターのあり方見直し	・滋賀食肉センターの新たなスキームによる運営開始に向けた関係者との対話の推進。		
農政水産部	畜産課	技監(課長) 富田 文博	近江牛のブランド力の向上と魅力発信(“三方よしの近江牛生産”の推進)	・「近江牛」ブランド振興基本方針の改定を進めるとともに、近江牛のおいしさを追求する「産官学で食味向上を目指す近江牛生産プロジェクト」を開始し、「将来にわたり“選ばれる近江牛”」であり続けるための牛よし、人よし、社会よしの“三方よし”の「近江牛生産」を推進。 <u>牛枝肉中のオレイン酸含有率測定頭数:2,900頭</u>		
農政水産部	畜産課	技監(課長) 富田 文博	生産基盤の強化と物価高騰等に対する畜産経営の支援	・キャトル・ステーションを核とした近江牛の地域内一貫生産の推進。 <u>導入頭数:220頭 販売頭数:216頭</u> ・生産性向上や生産コスト低減による経営強化・改善への取組の支援。 <u>取組農家数:60戸</u>		
農政水産部	畜産課	技監(課長) 富田 文博	協議の効率化	・協議資料は可能な限り事前配付とし、議論からのスタートに努める。 ・メリハリのある業務遂行のため、的確な指示と助言に努める。		●

令和8年度 組織目標

様式1

部局名	所属名	職・氏名	項目	目標	CO2 ネットゼ ロ	業務見 直し
農政水産部	水産課	課長 酒井 明久	企業等の地域貢献活動を通じた湖魚の需要創出	<p>・県内の大学・企業に対し、脱炭素に向けた地産地消推進や固有種の稚魚放流など、湖魚の食堂利用と連動したCSR活動を促し、湖魚食文化に「親しんで」「支えて」「守る」サイクルの実現を目指す。</p> <p><u>湖魚の食堂利用と連動した地域貢献活動に取り組む大学・企業：10校・社</u></p>		
農政水産部	水産課	課長 酒井 明久	気候変動に適応した資源対策によるアユ苗漁獲の確保	<p>・水温上昇や餌不足によりアユ資源が不安定化する中、仔魚がより生き残りやすい条件（水温、餌環境）を踏まえたアユ産卵用人工河川の運用に取り組むほか、水温の低い知内川を中心に河床耕耘により天然再生産を促すことで、アユ資源を確保する。</p> <p><u>需要が高まる12月の鮎苗注文量に対する供給率：100%</u></p>	●	
農政水産部	水産課	課長 酒井 明久	ビワマス引縄釣等プレジャーボートの採捕報告データ収集の効率化	<p>・ビワマス引縄釣等のプレジャーボートの採捕報告について、県の漁獲報告アプリ「湖レコ」の活用を促すことによってデータ収集を効率化し、速やかなビワマス資源の評価と適正管理を図る。</p> <p><u>「湖レコ」による採捕報告割合 R7:29% → R8:50%</u></p>		●

令和8年度 組織目標

様式1

部局名	所属名	職・氏名	項目	目標	CO2 ネットゼ ロ	業務見 直し
農政水産部	耕地課	技監 茶野 正徳 課長 竹山 徹	農業所得の向上を実現する生産基盤整備の推進	・生産性の向上を実現する農地の大区画化等の農地整備を推進する。 <u>農地整備に新規着手する集落数(累計):192集落(R7:180集落)</u>	●	
農政水産部	耕地課	技監 茶野 正徳 課長 竹山 徹	地域農業の発展を支える農業水利施設アセットマネジメントの推進	・農業用水を適正に配分するための監視・制御を行う設備の整備やエネルギー効率を向上させるインバータ制御の導入など、CO2削減にも資する施設の保全更新を推進する。 <u>施設の保全更新に着手する農用地面積(累計):35,930ha (R7:33,463ha)</u>	●	
農政水産部	耕地課	技監 茶野 正徳 課長 竹山 徹	水土里ビジョンに基づき地域と連携して行う農業水利施設の保全の推進	・地域の土地改良施設の機能を将来にわたって持続的に発揮させるための「水土里ビジョン」の策定を促進する。 <u>水土里ビジョンを策定する土地改良区:19改良区(R7:2改良区)</u>		
農政水産部	農村振興課	技監 茶野 正徳 課長 森 善和	農村集落の維持・活性化による中山間地域の振興	・集落間連携や多様な主体との協働活動により集落機能の維持・活性化を図った集落数 <u>累計集落数:75集落(R7:67集落)</u> ・農村集落の課題解決に向けた官民共創による企業のCSV活動の推進 <u>取組事例数:2案件</u>		
農政水産部	農村振興課	技監 茶野 正徳 課長 森 善和	世界農業遺産の活用による農山村の活性化	・魚のゆりかご水田の取組地区の維持・拡大 <u>R9取組地区:20地区(R8取組地区:19地区(見込み))</u> ・世界農業遺産を活用した「しがのアグリツーリズム」を通じて地域活性化に取り組む地域の創出 <u>R8取組着手地域:1地域</u>		

令和8年度 組織目標

様式1

部局名	所属名	職・氏名	項目	目標	CO2 ネットゼ ロ	業務見 直し
農政水産部	農村振興課	技監 茶野 正徳 課長 森 善和	農村地域における再生可能エネルギーの地産地消の推進	・CO2ネットゼロヴィレッジの実現を目指し、住民が主体となった再生可能エネルギーの地産地消の推進 <u>累計取組地区数:6地区 (R7:4地区)</u>	●	
農政水産部	農村振興課	技監 茶野 正徳 課長 森 善和	災害に強い農村地域づくりに向けた総合的な防災・減災対策の推進	・「滋賀県ため池中長期整備計画」に基づくため池防災工事の加速度的な推進 <u>「防災重点農業用ため池」の改修・廃止工事の着手数:12箇所 (R7末:53箇所)</u>		
農政水産部	耕地課 農村振興課	技監 茶野 正徳 課長 竹山 徹 課長 森 善和	クラウドサービスや生成AIを活用した事務のDXを推進	・R7に導入した、事業関係の問合せや回答、関係資料の共有を目的とするアプリの本格的な運用に加え、新たに生成AIサービスの活用により、事務の効率化を図る。		●